

# 第3回国連防災世界会議における ICHARM の活動について

2015年3月

ICARM は、去る3月14日～18日にかけて仙台市で開催された「第3回国連防災世界会議」において、ワーキングセッションやパブリックフォーラムへの参加、パネル展示を実施しましたので、その概要を報告します。

## 1. 「国連防災世界会議」について

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略を策定する国連主催の会議です。第1回世界会議は1994年に横浜市で、第2回世界会議は2005年に神戸市で開催され、第2回会議では国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組（HFA）」が採択されました。

第3回となる今回の会議には、国連加盟国（193か国）のほとんど（187か国）が参加しました。本体会議には、各国首脳、閣僚、国際機関代表、国際認定NGOなど6千5百人が参加し（UNISDR発表）、パブリックフォーラム等の関連イベントを含めると全体で14万人以上が参加しました。



主会場の「仙台国際センター」

## 2. 「仙台防災枠組み」の採択

今回の会議では、新たな国際防災指針となる「仙台防災枠組み」が採択されました。この中では、日本が主張する「より良い復興（Build Back Better）」、防災の主流化、データの収集・分析・管理・活用による災害リスク評価、強靱化に向けた防災への投資等が明記されました。また、枠組みでは減災に向けた「7項目の世界目標」が初めて明記されました。なお、具体的な被害削減や支援額の「数値目標」は見送られました。併せて、関係国に対し、新指針の実現に向けた努力を求める政治宣言「仙台宣言」も採択されました。

「7項目の世界目標」は以下の通りです。

- ①災害による死亡者数を減少させる（2020～2030年の人口10万人あたりの災害による死亡者数の平均値を、2005～2015年の平均値と比べて削減する）
- ②災害による被災者数を減少させる（目標設定方法は死亡者数と同じ）
- ③GDPに対する経済的な損失の割合を減少させる（2030年目標）
- ④重要なインフラの損害を減少させる（特に健康・教育施設）（2030年目標）
- ⑤防災戦略を採択する国の数を増加させる（2020年目標）
- ⑥途上国に対し、各国での活動への適切で持続的な支援を通じての国際協力を高める（2030年目標）
- ⑦住民に対し早期警報システム及び災害リスク情報とリスク評価へのアクセスを増加させる（2030年目標）

### 3. ICHARM からの貢献

会議は、関係会議などが行われる『本体会議』と、一般市民も参加できる『パブリックフォーラム』からなり、ICARM は下表のように積極的に各セッションに貢献し、世界への発信を行いました。

日時	セッション名	参加者	主催	場所
本体会議：ワーキングセッション				
3月14日(土) 15:00-16:30	ワーキングセッション “Risk Identification and Assessment” (リスクの特定と評価)	(パネリスト) 澤野上席研究員	UNISDR,WMO,U NESCO,国土交通 省,ICARM,他	仙台国際センター 萩ホール
パブリックフォーラム				
3月14日(土) 13:45-15:45	欧州での洪水-新たなリスクとリ ジリエンス構築のための戦略	(モデレーター) 竹内顧問	German Committee for Disaster Reduction	東北大学川内北キ ャンパス
3月14日(土) 13:00-20:00	Disaster Management Policies - Preparedness against Large Tsunamis and Earthquakes etc.	(発表) ICARM 博士コ ース学生 2 名・修 士コース学生 3 名	政策研究大学院大 学(GRIPS), UNESCO	AER ガーデンシテ ィ仙台
3月15日(日) 13:00-16:00	アジア防災会議 2015 -アジアにお ける兵庫行動枠組み(HFA)の実施 成果の確認とポスト HFA の核とな る行動の特定-	(プレゼン) 徳永上席研究員	内閣府、アジア防 災センター、 UNISDR,他	TKP ガーデンシテ ィ仙台句当台
3月16日(月) 18:00-20:00	統合的かつレジリエントなデルタ 管理に向けての国際同盟構築	(プレゼン) 今村上席研究員	国土交通省他	東北大学仙台川内 北キャンパス
3月17日(火) 10:00-12:00	BOSAI でつながる日本と世界 -防 災国際協力	(パネリスト) 小池センター長	JICA	東北大学川内北キ ャンパス
3月14日~ 18日	国土交通省『「忘れない」、「守りた い」防災パネル展』	栗林主任研究員、 カーリーナ専門研究員	国土交通省	AER ガーデンシテ ィ仙台

#### 3. 1 3月14日 15:00-16:30：ワーキングセッション “Risk Identification and Assessment” (リス クの特定と評価)

当該セッションでは、リスクの特定と評価に必要となるリスク情報について、いかにして提供される情報と政策決定のギャップを埋め、情報が政策決定に活用されるようにすべきかについて議論が行われました。



登壇する澤野上席研究員(右から二人目)

セッションには、澤野上席研究員がパネリストとして参加し、リスクアセスメントによって事前投資による構造物対策の効果を評価することの必要性(対策の有無による被害状況の変化のシミュレーション)

や、リスク評価に必要となるデータの入手および管理の重要性について発表するとともに、ICHARM が国際協力で果たしている役割について紹介しました。

なお、本体会議を構成する 34 のワーキングセッションへは、各国政府・国際機関・学会等から 259 名が基調講演者やパネリストとして参加し、そのうち日本人は 29 名で、大学以外の日本の研究機関から参加したのは、土木研究所以外には気象研究所と JTB 総合研究所でした。今回のセッションを通し、防災に関する研究機関としての ICHARM の役割を国際社会に示すことが出来ました。

### **3. 2 3月14日 13:45-15:45：パブリックフォーラム「欧州での洪水－新たなリスクとレジリエンス構築のための戦略」**

当該フォーラムは、ドイツ防災委員会 (DKKV) が主催し、ヨーロッパの最近の洪水とそれぞれの教訓に焦点を当て、洪水リスク評価および管理の向上に向けての議論が行われました。竹内顧問がモデレーター（司会）として参加し、5 名のパネリストとフロアによって、ヨーロッパにおける洪水保険や防災に関する EU 指令などについて活発な議論がなされました。



進行を行う竹内顧問

### **3. 3 3月14日 13:00-20:00：パブリックフォーラム「Disaster Management Policies」- Preparedness against Large Tsunamis and Earthquakes etc.**

当該フォーラムは、政策研究大学院大学 (GRIPS) が主催し、GRIPS での研究成果の発表や東日本大震災など大災害からの教訓に基づく効果的な災害マネジメントについての議論を目的に開催されました。このフォーラムでは、ICHARM が GRIPS と連携して実施している博士課程および修士課程の以下の学生 5 名から、自国の災害について発表を行いました。



発表を行うアンドレス氏（コロンビア）

（修士学生）

- ◇ Mr. Mohd Faiz Syed: 2005 India/Mumbai Flood
- ◇ Mr. George Chilli Otieno: 2010 Indonesia Mentawai Tsunami
- ◇ Mr. Jorge Andres Gonzalez Rojas: 2010 Columbia Flood

（博士学生）

- ◇ Mr. Nasif Ahsan: How to people decide to evacuate or not? A case report from the cyclone Alia
- ◇ Mr. Robin Kumar Biswas: Prediction tool to break the vicious cycle of disasters. Case of river bank erosion in Bangladesh

### **3. 4 3月15日 13:00-16:00：パブリックフォーラム「アジア防災会議 2015」**

当該フォーラムは、内閣府、UNISDR、アジア防災センターが主催となりアジア地域での防災・減災の課題について関係国・機関間の情報共有、意見交換、連携促進を目的して実施されました。

フォーラムでは、徳永上席研究員から 2012 年 7 月 13 日にインドネシア アンボン ヌグリリマ村で発生した地すべり及び約 1 年後の 2013 年 7 月 25 日に起きた天然ダムの崩壊に伴う土石流災害についての概

要及び災害被害軽減のための活動概要、その際の日本の貢献について説明しました。また、今回来日の被災地ペシハトゥ村長から、極めて大規模な災害であり、災害発生の数時間前まで住民が生活していたが、わずか3名の犠牲者のみであったこと、日本の協力に感謝していること等の報告がありました。

### **3. 5 3月16日 18:00-20:00 : パブリックフォーラム「統合的かつレジリエントなデルタ管理に向けての国際同盟構築」**

当該フォーラムは、オランダ・日本・コロンビアの3国により、デルタ（三角州）に関する国連の災害フレームワークの履行をサポートするための多くの関係者の協働である「Delta Coalition」の構築を目的として開催されました。オランダからは王女及び大臣が参加され、日本からはうえの賢一郎国土交通大臣政務官、コロンビアからも防災局長が参加し、3か国以外にもフィリピン、ベトナム、フランスから参加がありました。フォーラムでは、今村上席研究員が、日本における洪水の歴史とその対策及び ICHARM の開発した先端技術についての講演を行いました。



発表を行う今村上席研究員

### **3. 6 3月17日 10:00-12:00 : パブリックフォーラム：「BOSAI でつながる日本と世界-防災国際協力」**

当該フォーラムは、国際的な言葉となりつつある「BOSAI（防災）」をキーワードとし、国際防災協力を展開する国内行政、自治体、大学、NGO、そして協力の受け手国の方々と共に、口頭発表やパネルディスカッションを通して、より良い防災とは何かを考えるため、（独）国際協力機構が主催して開催されました。フォーラムには、小池センター長がパネリストとして参加し、チュニジアの JICA 円借款事業に触れながら、事業の目的の洪水対策に加え、ステークホルダー会議の中で出てきた渇水の問題についても検討したところ、気候変動による渇水の影響が同国では大きな問題になることを指摘したという事例が報告されました。

### **3. 7 3月14日～18日 : パネル展示**

国土交通省の防災に関する展示『「忘れない」、「守りたい」防災パネル展』の中で、ICHARM の活動紹介に関するパネル展示を行いました。



前述のように、本会議では新たな国際防災指針となる「仙台防災枠組み」が採択され、各国はこの枠組みのもと、世界の災害軽減に取り組むこととなります。ICHARM も、各種活動を通じ、かつ関係機関との連携のもと、今後も世界の水災害被害軽減に貢献していく所存です。皆様のご協力を頂ければ幸いです。